



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

## 試験報告書

第 404030317-001 号  
2004年(平成16年)05月18日

依頼者 シーエスシー

検体 CSC

表題 雌ラットを用いた急性経口毒性試験

2004年(平成16年)03月22日当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号  
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番

## 雌ラットを用いた急性経口毒性試験

### 要 約

CSCを検体として、雌ラットを用いた急性経口毒性試験を行った。

20、3、0.3及び0.05 mL/kgの用量の検体並びに溶媒対照として注射用水を雌ラットに単回経口投与し、14日間観察を行った。その結果、観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体の雌ラットにおける単回経口投与によるLD50値は、20 mL/kg以上であるものと考えられた。

### 依 頼 者

シーエスシー

### 検 体

CSC

### 試験実施期間

平成16年3月31日～平成16年5月18日

### 試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所  
北海道千歳市文京2丁目3番

### 試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所  
安全性試験部 安全性試験課  
下井 昭仁

### 試験実施者

大山 美波 ， 西森 未来 ， 長崎 健一 ， 佐久間 智宏 ， 畠山 洋文 ，  
中村 鉄平 ， 服部 秀樹

## 1 試験目的

検体について、雌ラットにおける急性経口毒性を調べる。

## 2 検 体

CSC

性状：淡黄色液体

## 3 試験液の調製

3 mL/kg以下の検体投与群については、検体を注射用水に溶解させ、0.3、0.03及び0.005 mL/mLの各試験液を調製した。

## 4 試験動物

5週齢の雌ラット[BrlHan:WIST@Jcl(GALAS)]を日本クレア株式会社から購入し、約1週間の予備飼育を行って一般状態に異常のないことを確認した後、試験に使用した。試験動物はポリカーボネート製ケージに各2匹収容し、室温23℃±2℃、照明時間12時間/日に設定した飼育室において飼育した。飼料[マウス・ラット・ハムスター用ガンマ線照射飼料；CRF-1、オリエンタル酵母工業株式会社]及び飲料水(水道水)は自由に摂取させた。

## 5 試験方法

検体投与用量として20、3、0.3及び0.05 mL/kgの4用量の投与群を設定し、更に注射用水のみを投与する対照群を設けた。各群の動物数はそれぞれ5匹とした。

投与前に約17時間試験動物を絶食させた。体重を測定した後、表-1に従って各濃度の試験液を胃ゾンデを用いて強制単回経口投与した。対照群には溶媒対照として注射用水を同様に投与した。

観察期間は14日間とし、投与日は頻回、翌日からは1日1回観察を行った。投与後7及び14日に体重を測定し、分散分析法により有意水準5%で統計学的検定を行った。観察期間終了時にすべての試験動物を剖検した。

表-1 群設定

投与用量 (mL/kg)	試験液濃度 (mL/mL)	投与容量 (mL/kg)
0*	0*	20
0.05	0.005	10
0.3	0.03	10
3	0.3	10
20	検体原液	20

\* 対照群(注射用水を投与)

## 6 試験結果

### 1) 死亡例

いずれの投与群においても、観察期間中に死亡例は認められなかった。

### 2) 一般状態

いずれの投与群においても、観察期間中に異常は認められなかった。

### 3) 体重変化(表-2)

投与後7及び14日の体重では、各群間で差は認められなかった。

### 4) 剖検所見

観察期間終了時の剖検では、すべての試験動物で異常は認められなかった。

## 7 考察

検体について、雌ラットを用いた急性経口毒性試験を実施した。

20 mL/kgを上限として、3、0.3及び0.05 mL/kgの用量で検体を雌ラットに単回経口投与した結果、いずれの用量においても観察期間中に異常及び死亡例は認められなかった。したがって、検体の雌ラットにおける単回経口投与によるLD50値は、20 mL/kg以上であるものと考えられた。

## 8 参考文献

- ・ OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 420(2001).

表-2 体重変化

投与用量 (mL/kg)	投与前	投与後7日	投与後14日
0*	119.0±3.1 (5)	149.2±7.5 (5)	168.0± 4.1 (5)
0.05	119.2±3.0 (5)	153.7±7.7 (5)	169.4± 8.9 (5)
0.3	118.4±3.1 (5)	147.7±4.4 (5)	164.6± 1.4 (5)
3	118.6±5.7 (5)	151.5±8.8 (5)	166.3±11.8 (5)
20	118.6±3.7 (5)	151.4±3.2 (5)	167.3± 7.6 (5)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。

括弧内に動物数を示した。

\* 対照群

以 上